

取扱説明書

ドリルプレス

品番：DRP-1/DRP-1N

この度は、KIKAIYA「ドリルプレス」をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

* 本書を最後まで必ずお読みいただき、商品を正しく取り付けしご使用下さい。

* 本書が必要になったとき、すぐ利用できるように大切に保管して下さい。



コバヤシデンソー株式会社

〒720-0843

広島県福山市赤坂町赤坂 1415-3

(MAIL) info@kikaya.com

KIKAIYA
TOOLS PRO SHOP KIKAIYA

【調査及び修理をご依頼の前に】

- ✓ 故障とお考えの前に弊社までご相談ください。組立て上の誤りや改造により故障及び損傷した場合は修理対応できませんのでご注意ください。
- ✓ 調査/修理を依頼される際の送料は、お客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。
※改良の為、予告なく仕様を変更する場合がありますのでご了承ください。

【開封時】

開封したらすぐに中身/動作を確認してください。
付属品の欠品、破損等がございましたらすぐに販売店にご連絡ください。
※商品は到着しましたら7日以内に必ず開封して中身/動作をご確認ください。

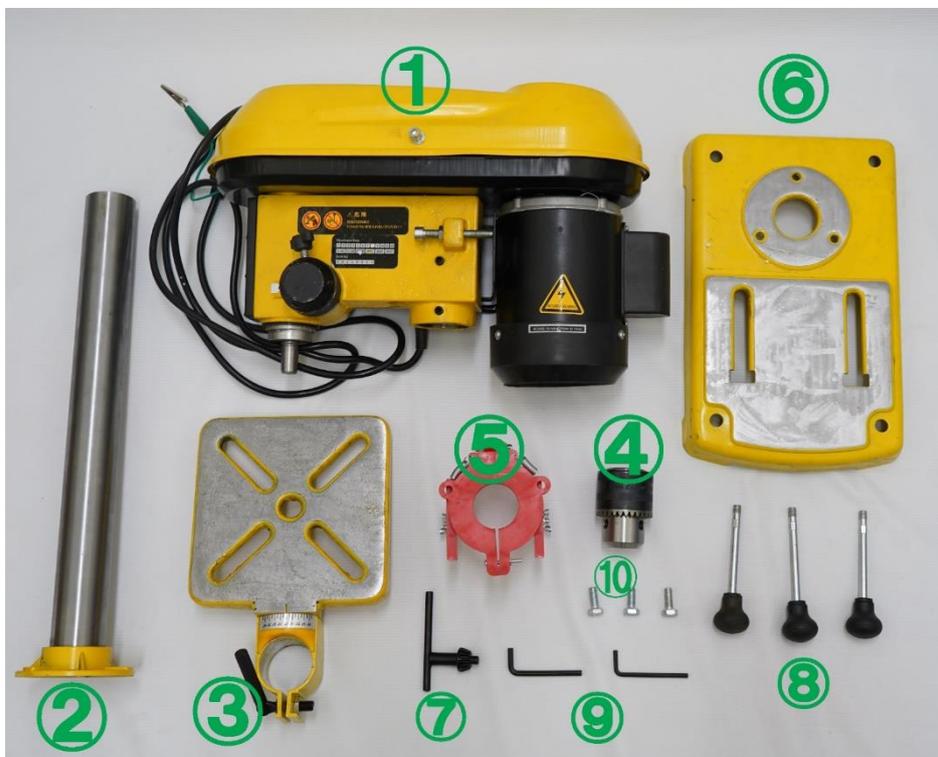
【注意事項】《使用・安全について》

1. 取扱説明書をよく読み理解してからご使用ください。
2. 製品及び付属品の改造は絶対にしないでください。
3. 指定された用途以外には使用しないでください。
4. 使用する電源の電圧を確認してからご使用下さい。電圧が適切でない場合、異常運転や事故に繋がる場合があります危険です。
5. 作業場は十分に明るく、常にきれいに整理整頓をしてください。
6. 作業に適した服装で作業してください。(長い髪・大き過ぎる服・ネックレス等は回転部に巻き込まれる恐れがあり危険です)
7. 作業中は保護具を着用してください。(保護メガネ・防塵マスク等)
8. 可燃性の液体やガスのある場所では使用しないでください。
9. コードを他の物に引っ掛けたり強く引っ張ったりしないでください。
10. 電動工具を濡れた場所や湿った場所では使用しないでください。
11. 使用中に異常が見受けられた場合には、直ちに使用を中止し点検を行ってください。
12. 誤って落としたりぶつけたときは、キリや本体に破損や亀裂・変形がないことをよく点検してください。破損・亀裂・変形があるとけがの原因になり危険です。
13. 回転させたまま放置しないでください。
14. 作業後のキリや切り屑は熱くなっておりますので触れないでください。
15. 危険ですので子供は絶対に近づけないでください。(保管の際も注意してください)
16. 加工する物をしっかりと固定してご使用ください。(クランプや万力等を利用)
17. 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保ち作業してください。
18. 体調が悪い時は使用しないでください。(重大な事故に繋がる恐れがあり危険です)
19. 使用後は必ず電源を切りコンセントプラグを電源から抜いてください。
20. 不意な始動を避ける為、プラグを電源に挿し込む前にスイッチが切れている事を必ず確かめてください。
21. 工具類(キリなど)は確実に取付けてください。確実にないと外れたりし、けがの原因になります。
22. 修理は専門知識のある方 又は 販売店にご依頼ください。

【仕様】

品番	DRP-1/DRP-1N	
本体重量	13.4kg	
電源	AC100V(50/60Hz)	
定格時間	15分	
電源コード	約 200mm	
振り	229mm	
チャック最大サイズ	φ16mm	
モーター消費電力	550W	
回転速度	9段階	
回転数 (rpm)	50Hz	420-2700rpm
	60Hz	490-3060rpm

【付属品】



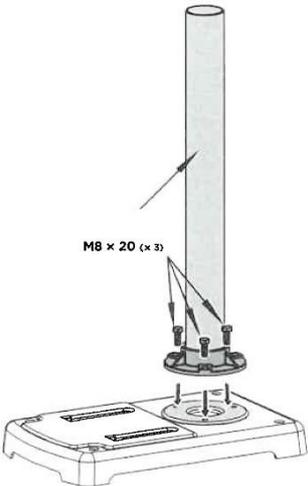
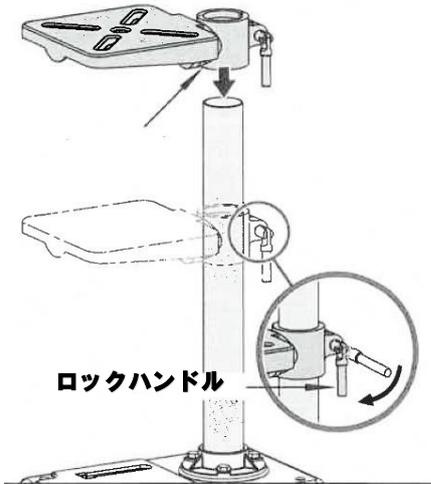
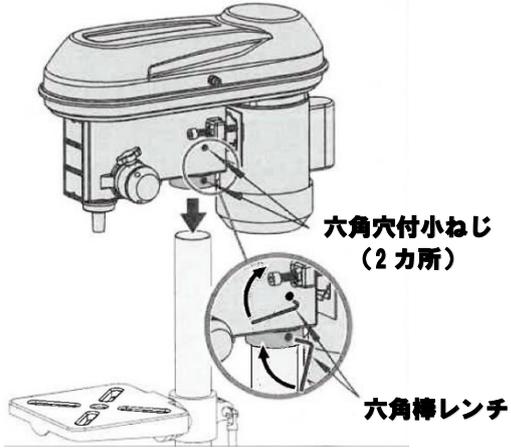
番号	名称	数量
1	本体(ヘッド)	1
2	支柱	1
3	ワークテーブル	1
4	ドリルチャック	1
5	ドリルチャックガード	1
6	ベース	1
7	ドリルチャックネジ	1
8	送りハンドル	3
9	六角棒レンチ(5mm)	1
	六角棒レンチ(4mm)	1
10	ネジ(M8×20)	3

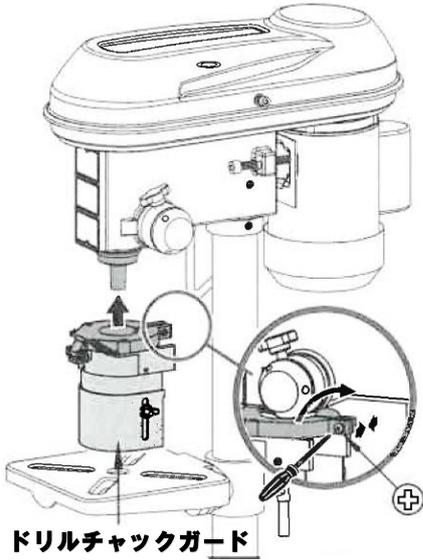
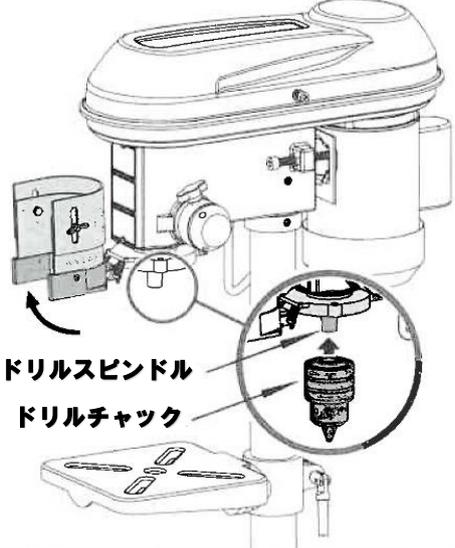
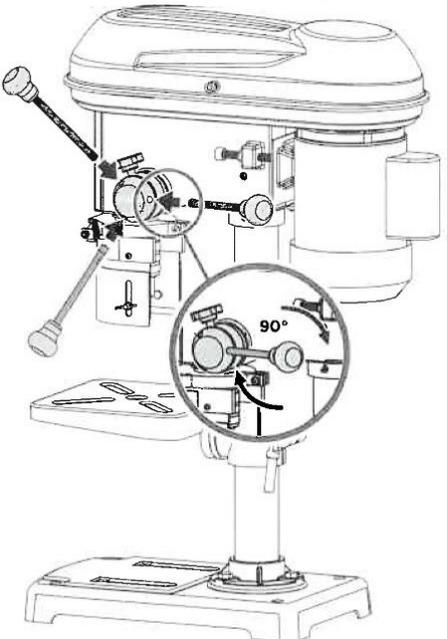
【組立て方法】

《開封したら》

- ✓ 付属品の数量をご確認ください。付属品が不足している場合は販売店へお問合せください。
- ✓ 下記の手順に沿って製品の組み立てをしてください。

《取り付け方法》

1	 <p>M8 x 20 (x 3)</p>	<p>●ベース・支柱・付属ネジを用意する。</p> <p>ベースに支柱を置き、付属ネジ (M8X20) で固定します。</p>
2	 <p>ロックハンドル</p>	<p>●ワークテーブルを用意する。</p> <p>ワークテーブルを支柱に通してロックハンドルを締め付けて固定します。</p>
3	 <p>六角穴付小ねじ (2カ所)</p> <p>六角棒レンチ</p>	<p>●本体ヘッドを用意する。</p> <p>支柱に本体ヘッドを挿し込み 本体横のグラブネジ (イモネジ) を六角棒レンチ (4mm) で固定します。</p>

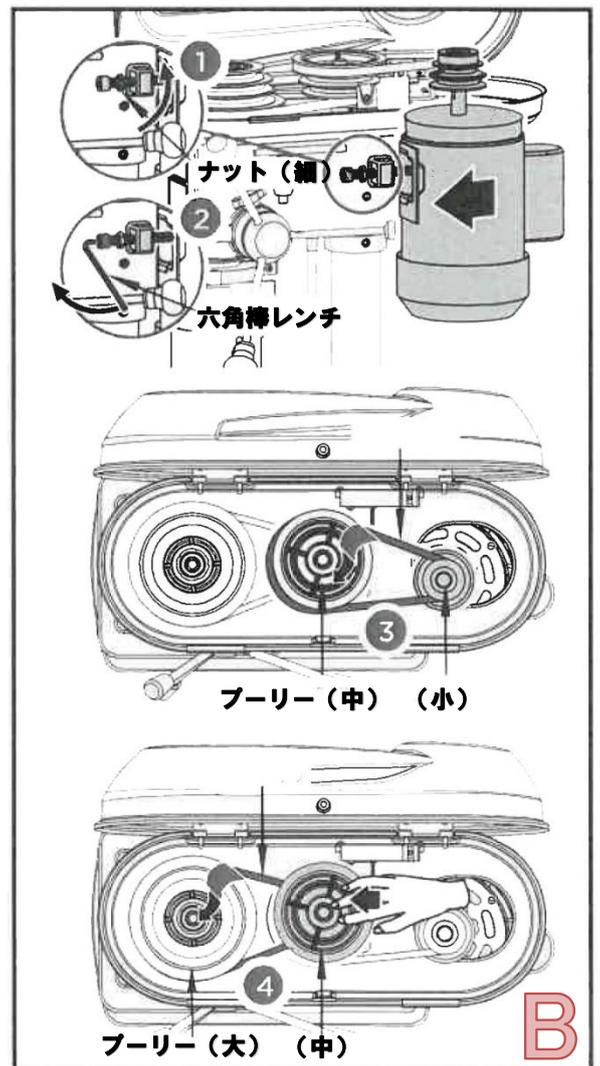
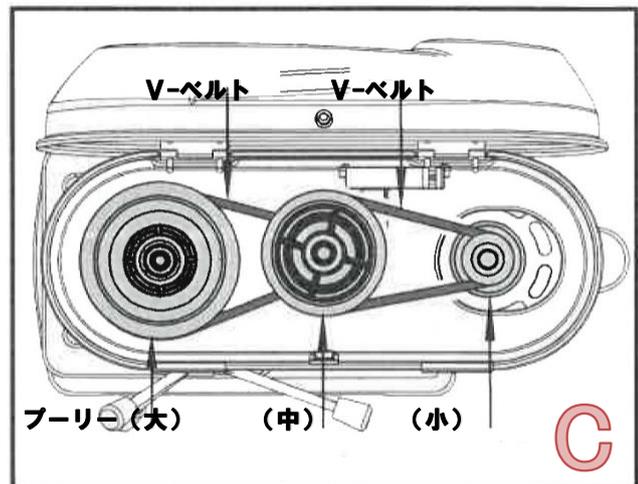
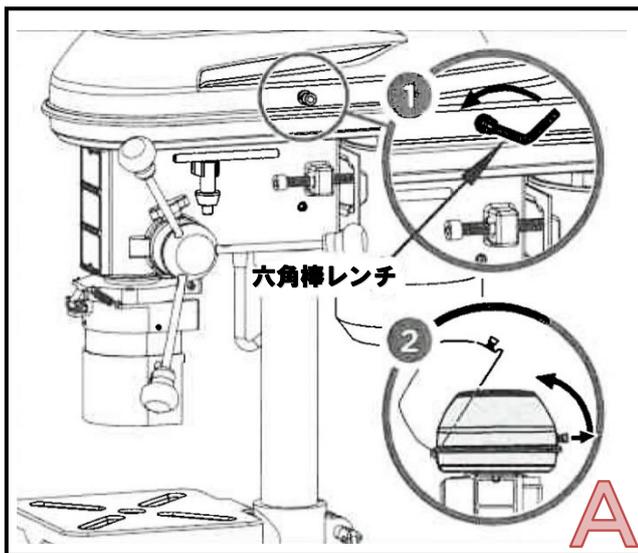
<p>4</p>	 <p>ドリルチャックガード</p>	<p>●ドリルチャックガードを用意する。</p> <p>ドリルチャックガードをドリルスピンドルに被せるように挿入し、ドライバー(+)でドリルチャックガードを固定します。</p>
<p>5</p>	 <p>ドリルスピンドル ドリルチャック</p>	<p>●ドリルチャックを用意する。</p> <p>ドリルチャックガードを上折りします。ドリルスピンドルにドリルチャックを挿入します。</p> <p>この際、必要ならば木ハンマー or プラスチックハンマーを使用して2~3回叩き込んでください。</p>
<p>6</p>		<p>●ハンドルを用意する。</p> <p>ハンドルスピニングガイドの穴にハンドルをねじ込みながら挿入し固定します。</p> <p>【組立て完了】</p>

《セットアップ》

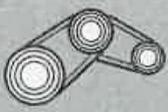
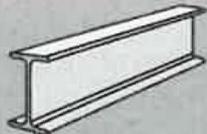
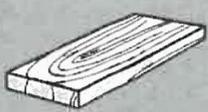
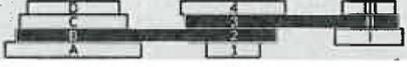
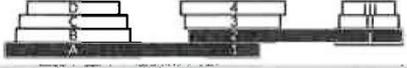
- ✓ ドリルプレスをしっかりした平らな面に置きます。
- ✓ ドリルプレスは設置面へボルト固定する事をお勧めします。(ベースプレートの穴を使用します)

《速度の選択》 ※工具はご自身でご用意ください

1. 六角棒レンチ(5mm)を使用して本体ヘッドカバーの固定ネジを外します。(図 A-①参照)
2. 本体ヘッドカバーを開きます。(図 A-②参照)
3. モーター部分にある【細い方のナット(M8)】を緩め、六角棒レンチ(6mm)でモーターのネジを外します。(図B-①②参照)
4. モーターを少し前方にスライドさせて、Vベルトの負荷を解放します。
5. 最初にプーリー(中)(小)間のVベルトを取外します。
次にプーリー(中)を少し横にスライドさせ、プーリー(大)(中)間のVベルトの負荷を解放し、Vベルトを取外します。(図B-③④参照)
6. 2つのVベルトをプーリーの溝に配置し、指定された速度に調整します。
7. プーリーとモーターをスライドさせて戻し、Vベルトに再度張力をかけます。
※Vベルトは押した時わずかに動く程度が正しく引っ張られた状態です。
(ベルトのたわみ距離は約5~10mmに調整します)
8. モーターは六角棒レンチ(5mm)を使用して締め、細いナット(M8)を締めます。
9. 本体ヘッドカバーを閉じて六角棒レンチ(5mm)で固定ネジを締めます。

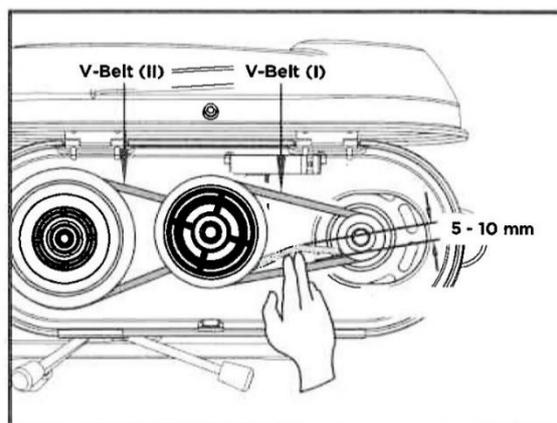


《推奨速度とドリルサイズ》※表は目安となります。(実際の加工対象物の状態によって異なります)

	 ベルト	 回転数(毎分)	 鉄材(mm)	 木材(mm)
	D-4/2-I	2700	<3	<4
	D-4/3-II	2200	3-4	4-5
	C-3/2-I	1980	4-5	5-6
	B-2/3-I	1400	5-6	6-7
	C-3/4-III	1100	6-7	7-8
	B-2/4-III	900	7-8	8-9
	A-1/2-I	770	8-9	9-10
	A-1/3-II	600	9-10	10-11
	A-1/4-III	420	>10	>11

《Vベルトの張力について》※工具はご自身でご用意ください

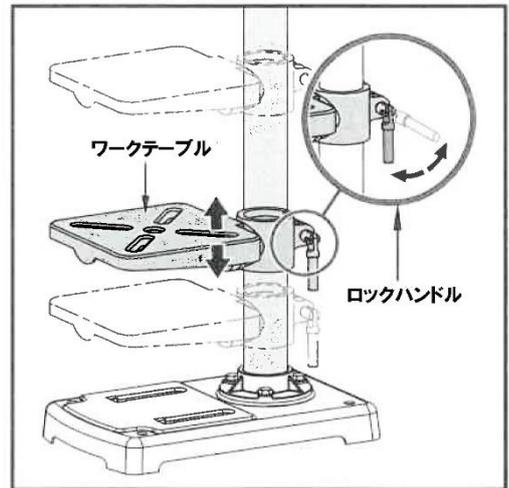
1. 本体ヘッドカバーの固定ネジを六角棒レンチ(5mm)で外します。
2. ヘッドカバーを開きます。
3. 六角棒レンチ(6mm)でモーターのクランプネジを外します。
4. モーターを少し後方へスライドさせて、Vベルトに張力をかけます。
Vベルトは押した時わずかに動く程度が正しく引っ張られている状態です。
(ベルトのたわみは約5~10mm程度です)
5. ヘッドカバーを閉じて六角棒レンチ(5mm)で固定ネジを締めます。



【調整方法】

《ワークテーブル高さ調整》

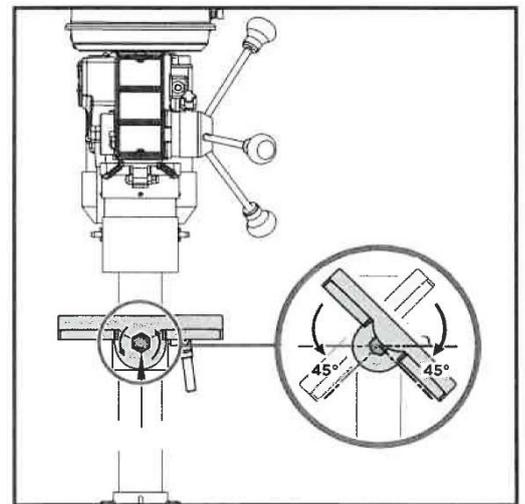
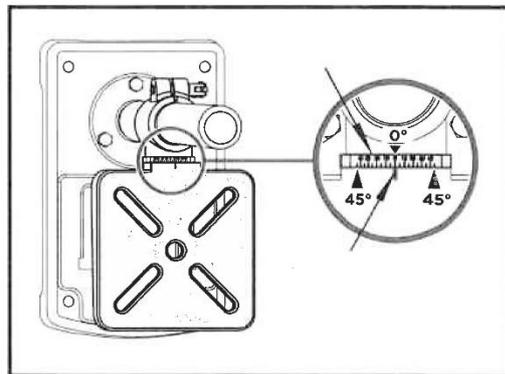
1. ロックハンドルのロックを放します。
2. ワークテーブルを希望の高さまで押します。
3. ロックハンドルでワークテーブルを再度固定します。



《ワークテーブル傾斜角度調整》

※ワークテーブルの傾斜角度は調整する事が可能です。

1. ワークテーブル下の固定ネジを外します。
2. ワークテーブルを、(右)または(左)に傾ける。
3. ネジを締めてワークテーブルを固定します。



《キリの取り付け・取り外し》

⚠ 不意な起動を防ぐため、キリの(取付け/取外し)前には必ず電源プラグを抜いてください。

1. ドリルチャックガードを折りたたむ。
2. ドリルチャックキーでドリルチャックの保持ジョーを緩める。
※3カ所の穴の内、1ヶ所の穴にチャックキーを挿し込み、左へ回すとドリルチャックの先端の爪が開きます。
3. キリを取り外して新しいキリを挿入する。
4. ドリルチャックキーでドリルチャックの保持ジョーを締める。
※この際に 1カ所だけチャックキーで締め付けず、3カ所を均等に締め付けてください。
5. キリがドリルチャックの中央に挿入されている事を確認する。
6. ドリルチャックガードを折り戻す。
※いかなる状況でも、ドリルチャックキーを挿入したままにしないでください。

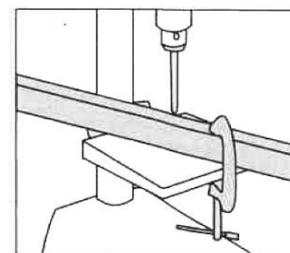
《穴あけ深さの調整》

※ハンドルの深さ調整ダイヤルをお好みの位置にセットする事で穴あけ深さを一定にする事が可能です。

1. ハンドルの深さ調整ダイヤルの調整ノブを緩める。
2. 深さ調整ダイヤルを回転させてお好みの深さにダイヤルを合わせる。
(本体の矢印マーク位置に合わせる)
3. 調整ノブを締めてダイヤルをロックする。

【使用方法】

- ✓ 作業場所には作業員以外を近づけないでください。
- ✓ ワークテーブル穴とドリル刃の位置を合わせておくか、加工物の下に(捨て木)等を置いておく事で、ドリル刃が加工物を貫通した場合でもテーブルやドリル刃の破損を防ぐことができます。
- ✓ 長い角材や(捨て木)を使用する際は、支柱の左側に木材が当たるようにしてください。
⇒ドリルの強い力がかかった場合、木材が暴れないようにするためには支柱の左側にあたるように配置しワークテーブルに固定(固定金具は付属していません)する必要があります。
(下図参照)
- ✓ 加工物は必ずバイス(万力)等で固定してからご使用ください。
※固定金具(万力)等は付属していません。
※作業時に手袋をしてはいけません。(ドリル刃に巻き込まれて大事故につながります)



《木材の穴あけ》

1. ドリルプレスの始動

始動(ON)	本体横の赤いスイッチを上げる
停止(OFF)	本体横の赤いスイッチを押す

2. ドリルリフティングアームの一つを反時計回りに回しドリルを下げます。
3. 適切な送り速度で希望の深さまで加工物にドリルで穴をあけます。
4. 穴をあけたら、キリをゆっくりと持ち上げ停止位置に戻します。



《金属の穴あけ》

- ✓ 金属用のキリを使用してください。
- ✓ キリの加熱を防ぐために、ドリルの先端をオイルで潤滑する必要があります。
- ✓ 金属加工物は必ずバイス(万力)等で固定してからご使用ください。

※固定金具(万力)等は付属していません。

※作業時に手袋を付けてはいけません。(ドリル刃に巻き込まれて大事故につながります)

ポイント

金属板の厚みによっても異なりますが、大きな穴をあける場合(小さなキリ)⇒(大きなキリ)へ変更し穴を広げてください。

(例)10mmの穴をあける場合 : 3mm→6mm→10mm の順にキリを交換し、徐々に穴を大きくする。

【トラブルシューティング】

症状	原因	対処法
本体が起動しない	電源ケーブルの異常 (ブレーカーが作動している)	電源コードを確認する。 もし異常がある場合は修理する
	電源スイッチの故障	販売店へお問合せください
	モーターの故障	販売店へお問い合わせください
モーターがオフにならない	モーターが固定されていない	Vベルトの張力を確認する クランプネジを締める
	キリが中央に固定されていない	ドリルチャックを確認する
大きなきしむ音がする	ベルトの張りが正しくない	ベルトの張りを調整する
	プーリーの異常	プーリーに注油する
	プーリーの緩み	プーリーの保持ナットを締める
作業中キリから煙が出る	間違った速度での穴あけ	穴あけ速度を変更する
	木片が穴に詰まっている	キリを上下させて木片を取り除く
	キリの不良	キリを交換する
	加工速度が遅すぎる	速度を調整する
キリがぐらつく 加工穴が丸くない	キリの曲がり	キリを交換する
	チャックにキリが正しく取付けられていない	チャックにキリを入れ直す
	ベアリングが正しくない	ベアリングを交換する
	加工物の硬さに適さない刃先・長さ・角度である	キリを適切なタイプに交換する
	チャックが正しく取付けられていない	チャックを入れ直す
キリが加工物に引っかかる	加工物がキリに引っかかる	加工物をサポートするか、固定する
モーターが動かない	スイッチの故障	販売店へお問合せください
	電源コードの損傷	販売店へお問合せください
	回路、接続の緩み、またはモーターの摩耗による不良	販売店へお問合せください
	電圧が低い	適切な電圧か確認する